

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年10月11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300297		
法人名	株式会社 ふるさと		
事業所名	グループホームふるさとの丘・山鳩の里		
所在地	長崎県諫早市中通町993-7		
自己評価作成日	平成23年10月11日	評価結果市町受理日	平成23年12月26日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成23年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然豊かな環境の中にあり季節の移り変わりを肌で感じ取れます。そんな環境を存分に活かし、花見やそうめん流し、畑の作物、椎茸、栗など収穫したものを食したりと季節ごとの楽しみに溢れています。また、当社の理念である「人権の尊重」、「温もりと穏やかな笑顔の追及」、「喜怒哀楽の共有」を全職員が周知し、ご利用者様一人ひとりに対して尊敬の念、感謝の気持ちを常に持って、共に生活しています。事業所全体が向上心を持ち一丸となって、ご利用者様、そして地域の福祉向上に努め、職員で構成された「鼓響会」は「銭太鼓」という地域の伝統芸能を継承し、行事活動で披露した際、皆様に大変喜んで頂きました。安全面においては、「安全はすべてに優先する」という社是のもと、オール電化、スプリンクラー、AED設置等設備を整え、定期的な防災訓練や救命講習を行い、ご利用者様の命を守る取り組みも徹底しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

職員一丸となって、理念ありきの支援に日々忠実に取り組む姿勢に敬服する当事業所である。初任の若い職員が多いが、指示待ちではなく積極性を持ちながら、指導を真摯に受け止めており、オーナー、代表者も講話や研修の機会に配慮して人材育成に尽力を惜しまずよりよい支援へ繋げている。また、各ユニットのリーダーが情報交換を密にして連携を持ち、礼儀を保ちつつも和やかに包まれている。地域連携はもちろん、諫早市におけるネットワーク、更に海外高齢者施設との交流と、多方面に向けられる取り組みにおいても今後の更なる発展に期待したい事業所である。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境と地域の中でその人らしい生活を支え、職員もホームを我が家と考え、理念の「喜怒哀楽の共有」が出来るように支援を行っている。また、新人職員にも採用時に理念の説明を詳しく行っている。	理念の実践へ向け、利用者に対する共感と傾聴の姿勢、家族の立場からの目線を忘れないこと、利用者との笑顔も引き出す環境作りにも努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方とは常に挨拶を交わしている。町内会に入会し、町内の行事には積極的に参加し、地域の一員として交流を図っている。地域の小中学生とも交流があり、ブラスバンド部の演奏会に参加した。	自治会ははじめ学校や幼稚園との交流、公共施設利用に関し地域とは良好な関係である。近辺の生活道路整備においては相互に協力し、地域貢献にも繋げている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場では、地域の方から質問・相談を受けている。また実習生やボランティアの受け入れも行っている。管理者は出身校に招かれ、認知症や介護の魅力について講話している、		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、行事活動、研修会、評価結果などの報告を行い、意見を頂いている。運営推進会議後、ホームの行事に参加して頂いたり、動画を観て頂きホームの様子をお伝えしている。	活発な意見、情報交換、更にメンバーに行事へ参加いただくなど有意義な会議内容である。今後家族参加に配慮し、夜間帯の開催も考えている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当課とは常に連携し、運営推進会議や公的扶助を受けている利用者の担当者が訪れている。各種相談、質問に対応して頂き、また現場の状況を知って頂く為、研修・行事に参加して職員と交流を図っている。	事業所社長が市グループホーム連絡協議会で要職にあり、事業所代表としてネットワーク代表としても行政と協力の機会も多く、連携がなされている。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は行わないという事を意識してケアを行っている。利用者が外へ出たい場合は職員も一緒に外出し、自由な生活を支援している。ベッド柵や話す言葉などにも気掛けて、その都度身体拘束になるかならないかを協議している。</p>	<p>利用者の行動に対し予測や事前察知しての見守りや、状況を見て優先順位をはかり声かけを行うなど、言葉による拘束、行動制限をしないことを日々心がけている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待禁止法も含め、社内及び社外研修会に参加し、参加できなかった職員も共有できるように取り組んでいる。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会に参加し他の職員にも説明している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、契約書、重要事項を詳しく説明し、同意を得ている。契約改定の場合も十分な説明を行っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者とは日々のコミュニケーションの中で希望や不満を聴き取り、ご家族へはホーム誌や来訪時、受診報告等の機会に意見や要望を聴くようにしている。またホーム玄関にも意見箱を設置している。</p>	<p>家族に対する傾聴の姿勢を常に心がけ、伺った話は職員間で口頭や申し送りノートで共有に努めている。病院受診の際に同行した家族と待合室で話し合う機会もあった。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回のミーティングや不定期にカンファレンスを開き、職員からの意見やアイデアを提案してもらえるようにしている。またスポーツや食事会の場を設け、気楽に話せる機会を作っている。</p>	<p>職員からの提案として、事務の効率化を図る為に書類様式の変更が採用されている。職員全員参加での全体ミーティングでは報告や意見交換が活発になされている。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者もホーム横の事務所や夜は隣の自宅にいて職員と常に顔を合わせホームにも出掛けている。職員の資格取得に支援・環境づくりに努めている。市GH協ボウリング大会にも積極的に参加し、他事業所と交流している。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回のミーティングや「学ぶ心」を目標に掲げ、新人職員には社会常識を含めた基礎勉強会を開いている。また、市GH協の研修会にも積極的に参加している。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市GH連絡協議会の月1回の研修やボウリング大会に参加し、他事業所と一緒に学んだり、親睦を深めている。また代表者と職員と一緒に他事業所の行事に参加・見学をしてサービスの向上に努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に面談し、利用者やご家族、関係者から状況を聞き、把握している。入居後、生活が安定するまでは個別記録に詳細を記述し、状況の変化に応じた支援を行っている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>これまでのご家族の苦労やサービスの利用状況などを聴き、入居後、本人が安定するまでは定期的にご家族に連絡をし、報告や要望を伺うようにしている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、出来る限り柔軟な対応を行い、改善に向けた支援の提案・相談に努めている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>理念にある「喜怒哀楽の共有」を意識し、利用者は人生の大先輩であるということを知り、生活の知恵や昔の習慣などを教えて頂いている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来訪時には本人の状況を報告、相談し、情報の共有に努め、本人を支えるためにご家族と同じような思いで支援している。面会時間は定めておらず、ご家族の宿泊も受け入れている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている</p>	<p>利用者の馴染みの知人・友人の方々と面会を継続的な交流ができるよう支援している。入居中、配偶者を亡くされた方に、職員も同行し告別式に参列した。</p>	<p>職員が最寄りのバス停まで来訪者を車で迎えに行く配慮をしている。家族行事に参加の折は、食事など生活上の準備、注意などの支援をおこなっている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を全ての職員が共有している。ホーム内に入居者心得を掲示し、全員が楽しく過ごせるようはたらきかけをしている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了しても次の施設や病院へ詳しく情報提供を行い、面会に行ったりしている。退居された入居者のご家族の方がホームに遊びに来られたり、年賀状のやりとりなどの関係を継続している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>職員間やご家族と本人の意思を踏まえて検討している。また日々の行動、言葉、表情などから、本人の思いや意向を推測したり、それとなく確認している。</p>	<p>通常6ヶ月に1回、変化の際は随時見直しを実施し、生活上の気付きや家族からの聞き取りなど加えながら情報の充実したアセスメントを作成している。</p>	

24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>初期段階で、本人やご家族から生活歴、ライフスタイルなどの基本情報を得て、本人のバックグラウンドや生活全体像を把握するよう努めている。入居後も継続して情報収集している。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>利用者一人ひとりが出来ることを暮らしの中で把握することに努め、本人の行動、動作、発言や職員の働きかけ方など1日を記録するようにしている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族とのコミュニケーションの中で意見や要望を踏まえ、作成している。作成後は了承のサインを頂いている。また状態の変化に応じてカンファレンスを行い計画を見直している。</p>	<p>入居者全員に関わりを持ち、情報共有が出来るよう、担当職員を適時入れ替えている。プランは職員全員でカンファレンスで話し合い、最終的に計画作成担当者がまとめている。</p>	<p>前回、目標達成計画に挙げていたケアプランに沿った記録に対する取り組みの継続により、プランと記録との連携性が更なる支援の充実に反映されることに期待したい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録や特記ノートに日々の様子やケアの内容などを記録している。また、毎日の申し送りでも職員が状況を把握し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者やご家族のニーズを把握して、医療連携体制、通院介助、週1回の往診、訪問美容サービス、重度化に伴う終末期のケアなど柔軟な対応に努めている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>警察や消防に協力を得られるような体制作りをして、公民館や有喜ふれあい会館等も利用している。利用者の希望に応じて、通所リハビリや訪問美容サービスも利用して頂いている。</p>		

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人やご家族が希望するかかりつけ医とご家族同意の協力医と24時間連携体制を築き、受診通院時には職員が同行し、状況の把握、家族への説明を行っている。</p>	<p>他科受診は受診支援し、家族へはユニットリーダーより電話で報告している。主治医からは電話で指示を仰いだり、精神科の先生は往診等、協力頂いている。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を配置しており、協力医とも連携を取りながら、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。看護職員による褥瘡の指導で症状が著しく改善された。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には本人への支援内容に関する詳しい情報を提供し、頻回に職員が見舞いに行くようにしている。病院やご家族とも回復状況など情報交換しながら速やかな退院支援に結びついている。入院している方を心配される利用者にも不安にならないよう援助している。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に説明し、ご家族の意向を確認している。また重度化した場合には協力医に相談し、繰り返しご家族の意向を確認している。</p>	<p>重度化が進んでいるユニットもあり、対応に関し経験豊富な職員から若手の職員へ、看取りも含めて支援のあり方や自身のメンタル維持など伝えながら学びを重ねている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年に1回、諫早市グループホーム連絡協議会の救命講習を受けている。またAEDを設置した為、定期的に使い方や心肺蘇生法、応急処置法等を訓練し、全ての職員が対応できるようにしている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、避難訓練を行い、消火器操法の練習、非常用備品の点検も定期的に行っている。また緊急連絡網を作成し、状況に応じ、職員が待機する場合もある。地域の消防団や自治会長に運営推進会議にて協力を得ている。</p>	<p>防災担当の職員を決め対策に取り組んでいる。連絡協議会会合では、大震災被災地支援に行かれた消防団員の体験談を聞き、備えに対し思いを新たにしている。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損なわないように対応や声かけを行っている。主観的に各自が自覚するだけでなく、客観的な視点からも検討し改めべきものは話し合い、改善するようにしており、理念にある「人権の尊重」を常に意識している。	理念を忠実に最大限に配慮に努めている。ドアの開閉、耳元で伝える気配りなど日常での心がけはもちろん、個人情報の取り扱いにも細心の注意を払っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、本人がどうしたいのか、何がしたいのかなど希望を聞いている。意思表示が困難な方には、ご家族に相談したり、日々の生活の中から判断するよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は時間を区切った過ごし方せず、一人ひとりのペースを守り、利用者の状態や希望に合った生活支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人・ご家族が持ち込まれたものを本人の意思で着用し、職員は必要に応じて見守り、介助を行っている。誕生会などでは女性は化粧をし、男性はスーツにネクタイをして頂いている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談し希望に沿った食事を提供している。彩りや盛り付けにも配慮し、畑の野菜や栗、山菜など自然環境を活かし、旬な食材を取り入れ、食欲がわく雰囲気作りも心掛けている。	野外での食事や、手作り金券の交換で職員による模擬店での飲食など、アイデアを豊富に生かしている。また、地下水を使用しているが、週に1回水質検査を行い安全面も徹底している。	

41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>1日1300～1500kcalを目安にバランスを考えて献立を作成し、利用者の状態に合わせて刻み食やトロミ食、らく飲みを使用している。食事、水分摂取量は個人個人記録し把握している。水分摂取量は1日1500mlを目安にしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎日、声をかけ口腔ケアを行い、必要に応じて介助に入り、口腔状態も確認している。週に2回義歯洗浄を行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者の様子を敏感に察知し、さりげなく声をかけ、トイレ誘導にしている。トイレでの排泄を大切にしながら、尿量測定が必要な方にはPWCを使用し、計測を行っている。</p>	<p>トイレでの排泄を自立目標に置き、健康管理を含めたきめ細やかな支援をおこなっているが、本人、家族の意向も尊重してパット等を使用している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>薬に頼るのではなく白米に麦を混ぜたり、ヤクルトや牛乳、食物繊維の取れる食事を提供したり、腹部マッサージや適度な運動を取り入れ、自然排泄できるよう取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日は基本的に1日おきであるが、希望があれば入浴日にこだわることなく、支援を行っている。また、入浴時間やお湯の温度は個々のニーズに沿った支援を行っている。</p>	<p>入居者の意向に沿って気分転換にユニット各棟の浴室で柔軟に対応している。端午の節句、冬至など行事湯で季節感も楽しんで頂いている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>なるべく日中の活動を促し、夜に休めるよう生活のリズムを整えている。状況に応じて利用者の意思のもと日中でも居室で休んで頂いている。眠剤を服用している方は日中生活の妨げになっていないか確認している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方された薬は個別記録、受診ノート等に記入し、申し送りをして、誤薬がないよう名前を記入している。投薬する際は二重に確認するシステムを確立し、誤薬防止に努めている。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事の後片付けや洗濯物たたみ、畑の作物作りなど得意分野で一人ひとりの力を発揮できるよう支援して、職員は必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望に沿ってご家族との外食をしたり、ゆっくりと時間をとり、外食や弁当を持参しての買い物などの支援をしている。</p>	<p>買い物時は自己決定の場面作りに努め、職員と外食の機会も設けている。消防大会の応援、友人と連れ立って選挙投票などへ出掛けている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分の財布からお金を出すことで社会性の維持に繋げており、ご家族の協力を得て、少額のお金を所持している利用者もいる。ホームで管理している利用者でも、本人の希望に応じ、いつでも遣えるようにしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>毎年、年賀状や暑中見舞いなどを出す利用者の支援を行い、本人の希望に応じて電話をしたり、手紙を出せるよう支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム周りは四季の移り変わりを自然に感じることができ、居室や共有場所には温度・湿度計を設置し、記録している。快適な生活を提供している。</p>	<p>2ユニットいずれもリビングを中心に生活感と寛ぎを大切にしている。「ふるさとの丘」のリビングは開放的空間で、多目的スペースとして活用されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室があり、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげる空間を設けている。また事務所の2階和室が談話室になっており、自由に利用できる空間を設けている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れたタンス、写真、仏壇、ベッドなど自由に持ち込んで頂き、一人ひとりが安心して過ごせる居心地良い居室作りに努めている。	持ち込みの家具、品物が多く、その人らしい個性や居心地のよい住まい方が伝わる居室内である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には顔写真と名前を掲示している。トイレ、洗面台、浴室には貼り紙をして対応している。その他状況に応じて環境整備に努めている。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>家庭的な環境と地域の中でその人らしい生活を支え、職員もホームを我が家と考え、理念の「喜怒哀楽の共有」が出来るように支援を行っている。また、新人職員にも採用時に理念の説明を詳しく行っている。</p>		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近隣住民の方とは常に挨拶を交わしている。町内会に入会し、町内の行事には積極的に参加し、地域の一員として交流を図っている。地域の小中学生とも交流があり、ブラスバンド部の演奏会に参加した。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議の場では、地域の方から質問・相談を受けている。また実習生やボランティアの受け入れも行っている。管理者は出身校に招かれ、認知症や介護の魅力について講話している、</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者の状況、行事活動、研修会、評価結果などの報告を行い、意見を頂いている。運営推進会議後、ホームの行事に参加して頂いたり、動画を観て頂きホームの様子をお伝えしている。</p>		
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市担当課とは常に連携し、運営推進会議や公的扶助を受けている利用者の担当者が訪れている。各種相談、質問に対応して頂き、また現場の状況を知って頂く為、研修・行事に参加して職員と交流を図っている。</p>		

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は行わないという事を意識してケアを行っている。利用者が外へ出たい場合は職員も一緒に外出し、自由な生活を支援している。ベッド柵や話す言葉などにも気掛けて、その都度身体拘束になるかならないかを協議している。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待禁止法も含め、社内及び社外研修会に参加し、参加できなかった職員も共有できるように取り組んでいる。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会に参加し他の職員にも説明している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、契約書、重要事項を詳しく説明し、同意を得ている。契約改定の場合も十分な説明を行っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者とは日々のコミュニケーションの中で希望や不満を聴き取り、ご家族へはホーム誌や来訪時、受診報告等の機会に意見や要望を聴くようにしている。またホーム玄関にも意見箱を設置している。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回のミーティングや不定期にカンファレンスを開き、職員からの意見やアイデアを提案してもらえるようにしている。またスポーツや食事会の場を設け、気楽に話せる機会を作っている。</p>		

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者もホーム横の事務所や夜は隣の自宅にて職員と常に顔を合わせホームにも出掛けている。職員の資格取得に支援・環境づくりに努めている。市GH協ボウリング大会にも積極的に参加し、他事業所と交流している。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回のミーティングや「学ぶ心」を目標に掲げ、新人職員には社会常識を含めた基礎勉強会を開いている。また、市GH協の研修会にも積極的に参加している。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市GH連絡協議会の月1回の研修やボウリング大会に参加し、他事業所と一緒に学んだり、親睦を深めている。また代表者と職員と一緒に他事業所の行事に参加・見学をしてサービスの向上に努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に面談し、利用者やご家族、関係者から状況を聞き、把握している。入居後、生活が安定するまでは個別記録に詳細を記述し、状況の変化に応じた支援を行っている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>これまでのご家族の苦労やサービスの利用状況などを聴き、入居後、本人が安定するまでは定期的にご家族に連絡をし、報告や要望を伺うようにしている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、出来る限り柔軟な対応を行い、改善に向けた支援の提案・相談に努めている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>理念にある「喜怒哀楽の共有」を意識し、利用者は人生の大先輩であるということを全職員が周知し、生活の知恵や昔の習慣などを教えて頂いている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来訪時には本人の状況を報告、相談し、情報の共有に努め、本人を支えるためにご家族と同じような思いで支援している。面会時間は定めておらず、ご家族の宿泊も受け入れている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>昔から利用している店を利用している利用者や利用者の馴染みの知人・友人の方々との電話、手紙、面会を継続的な交流ができるよう支援している。遠方から面会に来られるご家族にはホームに宿泊できるよう支援している。お孫さんが結婚した際、披露宴に参加された。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を全ての職員が共有している。ホーム内に入居者心得を掲示し、全員が楽しく過ごせるようはたらきかけをしている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了しても次の施設や病院へ詳しく情報提供を行い、面会に行ったりしている。退居された利用者のご家族の方がホームに遊びに来られたり、年賀状のやりとりなどの関係を継続している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>職員間やご家族と本人の意思を踏まえて検討している。また日々の行動、言葉、表情などから、本人の思いや意向を推測したり、それとなく確認している。</p>		

24	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>初期段階で、本人やご家族から生活歴、ライフスタイルなどの基本情報を得て、本人のバックグラウンドや生活全体像を把握するよう努めている。入居後も継続して情報収集している。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>利用者一人ひとりができることを暮らしの中で把握することに努め、本人の行動、動作、発言や職員の働きかけ方など1日を記録するようにしている。</p>		
26	10 <p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族とのコミュニケーションの中で意見や要望を踏まえ、作成している。作成後は了承のサインを頂いている。また状態の変化に応じてカンファレンスを行い見直している。</p>		
27	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録や特記ノートに日々様子やケアの内容などを記録している。また、毎日の申し送りで全職員が状況を把握し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者やご家族のニーズを把握して、医療連携体制、通院介助、週1回の往診、訪問美容サービス、重度化に伴う終末期のケアなど柔軟な対応に努めている。</p>		
29	<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>警察や消防に協力を得られるような体制作りをして、公民館や有喜ふれあい会館等も利用している。利用者の希望に応じて、通所リハビリや訪問美容サービスも利用して頂いている。</p>		

30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医とご家族同意の協力医と24時間連携体制を築き、受診通院時には職員が同行し、状況の把握、家族への説明を行っている。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、協力医とも連携を取りながら、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。看護職員による褥瘡の指導で症状が著しく改善された。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援内容に関する詳しい情報を提供し、頻回に職員が見舞いに行くようにしている。病院やご家族とも回復状況など情報交換しながら速やかな退院支援に結びついている。入院している方を心配される利用者にも不安にならないよう援助している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、ご家族の意向を確認している。また重度化した場合には協力医に相談し、繰り返しご家族の意向を確認している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、諫早市グループホーム連絡協議会の救命講習を受けている。またAEDを設置した為、定期的に使い方や心肺蘇生法、応急処置法等を訓練し、全ての職員が対応できるようにしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行い、消火器操作法の練習、非常用備品の点検も定期的に行っている。また緊急連絡網を作成し、状況に応じ、職員が待機する場合もある。地域の消防団や自治会長に運営推進会議にて協力を得ている。		

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損なわないように対応や声かけを行っている。主観的に各自が自覚するだけでなく、客観的な視点からも検討し改めるべきものは話し合い、改善するようにしており、理念にある「人権の尊重」を常に意識している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、言語障害がある利用者には五十音表を使用している。本人がどうしたいのか、何がしたいのかなど希望を聞いている。意思表示が困難な方には、ご家族に相談したり、日々の生活の中から判断するよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は時間を区切った過ごし方はせず、一人ひとりのペースを守り、利用者の状態や希望に合った生活支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人・ご家族が持ち込まれたものを本人の意思で着用し、職員は必要に応じて見守り、介助を行っている。誕生会などでは女性は化粧をし、男性はスーツにネクタイをして頂いている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談し希望に沿った食事を提供している。彩りや盛り付けにも配慮し、畑の野菜や栗、山菜など自然環境を活かし、旬な食材を取り入れ、食欲がわく雰囲気作りも心掛けている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1300～1500kcalを目安にバランスを考えて献立を作成し、利用者の状態に合わせて刻み食やトロミ食、らく飲みを使用している。食事、水分摂取量は個人個人記録し把握している。水分摂取量は1日1500mlを目安にしている。		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎日、声をかけ口腔ケアを行い、必要に応じて介助に入り、口腔状態も確認している。週に2回義歯洗浄を行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者の様子を敏感に察知し、さりげなく声をかけ、トイレ誘導にしている。トイレでの排泄を大切にしながら、尿量測定が必要な方にはPWCを使用し、計測を行っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>薬に頼るのではなく白米に麦を混ぜたり、ヤクルトや牛乳、食物繊維の取れる食事を提供したり、腹部マッサージや適度な運動を取り入れ、自然排泄できるよう取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日は基本的に1日おきであるが、希望があれば入浴日にこだわることなく、支援を行っている。また、入浴時間やお湯の温度は個々のニーズに沿った支援を行っている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>なるべく日中の活動を促し、夜に休めるよう生活のリズムを整え、眠剤を服用している方は日中生活の妨げになっていないか確認している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方された薬は個別記録、受診ノート等に記入し、申し送りをして、誤薬がないよう名前を記入している。投薬する際は二重に確認するシステムを確立し、誤薬防止に努めている。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事の後片付けや洗濯物たたみ、畑の作物作り、洗車、包丁研ぎ、買い物に同行して頂くなど得意分野で一人ひとりの力を発揮できるよう支援している。職員は必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望に沿ってご家族との外食をしたり、ゆっくりと時間をとり、外食や弁当を持参しての買い物などの支援をしている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分の財布からお金を出すことで社会性の維持に繋げており、ご家族の協力を得て、少額のお金を所持している利用者もいる。ホームで管理している利用者でも、本人の希望に応じ、いつでも遣えるようにしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>毎年、年賀状や暑中見舞いなどを出す利用者の支援を行い、本人の希望に応じて電話をしたり、手紙を出せるよう支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム周りは四季の移り変わりを自然に感じることができ、居室や共有場所には温度・湿度計を設置し、記録している。快適な生活を提供している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下にソファを設け一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげる空間を設けている。また事務所の2階和室が談話室になっており、自由に利用できる空間を設けている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れたタンス、写真、仏壇、ベッドなど自由に持ち込んで頂き、一人ひとりが安心して過ごせる居心地良い居室作りに努めている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には顔写真と名前を掲示している。トイレ、洗面台、浴室には貼り紙をして対応している。その他状況に応じて環境整備に努めている。		
アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない